

日本板硝子株式会社 2005年3月期決算説明会 主なQ&A

Q1. 原油価格が高騰している。ガラス部門での原料高への対処は？今後内部的なコストダウンだけでは難しいのではないかと？

A1. 販売価格への転嫁については、個別交渉を進めている。加えて高機能商品の販売拡大や、品質改善によるコスト削減に努力したい。

Q2. 光通信マイクロレンズの下期の出荷増に向けての感触は？

A2. 北米の長距離通信網の需要はまだ先になるが、アクセス網（局と家庭の間）については、かなり活発になっている。当社はこのアクセス網に使える部品を開発しており、ユーザからの引き合いも活発になってきた。このまま順調にいけば下期には伸びると見ている。

Q3. PDPガラスの計画への織り込みは？

A3. 今年度下期に売上20億円、収益は初期の償却費増などもあり、今年度は10億未満の赤字を予定している。

Q4. 持分法適用会社のNHテクノグラスの投資計画は決まっているか？

A4. 現在、日本に5窯、台湾に3窯、シンガポールに2窯あるが、来年年初にシンガポールに第7世代対応の窯を新設する。その他にも日本の小さい窯についても定修を機に大型化を進めており、全体の生産能力を増やしていく。

Q5. 持分法適用会社ピルキントンとのシナジーの具体策は？

A5. ガラス部門での営業情報、品質、コストなどの情報交換や、共同受注活動などを行っている。まだ定量的に言えるものは少ないが、着実に進んでいる。

Q6. 配当政策について伺いたい。連結に比べて単体での利益（＝配当原資）が少ない。6円配は蛸足状態で、今後長期的に厳しいのではないかと？

A6. 状況は当社でも認識している。今までは子会社からの受取配当について厳密に運用していなかった面もあったが、最近、支配会社から当社への配当基準を決めたため、今後は単体利益、配当原資を増やせると見ている。その他にも、法的な側面も考慮しながらいろいろな検討を続けたい。